

大会宣言

京都総評第88回定期大会は、労働者・国民と立憲野党の共同が広がり、参議院選挙で改憲勢力が3分の2を割り込むという、政治変革の第1歩が踏み出された中で開かれました。

大会の討論では、安倍政権が、国会では多数派であっても、地域では少数派であることが実感をもって語られ、賃上げとまともな雇用を求めて職場と地域でたたかえば、必ず前進が切り開かれることが強調されました。また、組織拡大の取り組みから、今こそ労働組合が出番であり、その役割が社会的に求められていること、そこに確信をもって未組織労働者の中に打って出ることの重要性も明らかになりました。

安倍首相は、憲法9条改悪を自民党の参議院選挙公約に掲げ、議席を減らしたにも関わらず、秋の臨時国会での改憲議論に執念を燃やしています。しかし、どの世論調査でも、国民は改憲を望んでいません。さらに、国会運営での立憲主義破壊、政治の私物化、日韓関係に象徴される外交の失敗など、国民との矛盾は広がるばかりです。

経済でも安倍政権の行き詰まりは深刻です。GDPが若干プラスになったとしても、国民の購買力は一方向に回復していません。さらに10月に予定されている消費税の増税が実施されれば、日本経済に大混乱をもたらすことは明らかです。

京都総評は、「8時間働けばまともに暮らせる賃金を」「人間らしく働くルールの実現で、労働時間の短縮、いのちと健康を守ろう」「最賃1,500円は当たり前 フトコロをあたためて、地域も元気に」をスローガンに、19秋季年末闘争と20春闘で、大幅賃上げとまともな雇用、労働時間の短縮で、働く者のフトコロをあたため、健康を守り、暮らしも地域も元気にしていくことを求める対話と共同を広げることを呼びかけます。

「安倍9条改憲NO！全国統一署名」を広げに広げ、臨時国会での憲法審査会開催を阻止しましょう。「沖縄にも京都にも米軍基地はいらない」の声を広げ、沖縄・辺野古への新基地建設阻止、経ヶ岬の米軍基地撤去を実現しましょう。

世論と安倍政権の暴走がかつてなく矛盾を深めたいまこそ、労働組合が総決起して、解散・総選挙を求める大運動をすすめるときです。

安倍政治の先兵として、福祉を切り捨て、「応仁の乱以来のまち壊し」にまい進し、さらに、雇用責任を放棄して130人の嘱託職員の仕事と暮らしを奪おうとしている京都市政を、市民の手に取り戻すために総決起することを心から呼びかけます。

「ひとりの労働者も路頭に迷わせない」「いのちと健康の不安なく働き続ける」ために、争議の勝利・解決へ力を合わせましょう。

すべての労働者に労働組合を知らせ、組織の強化と拡大に、総力をあげましょう。

以上、宣言します。

2019年9月7日

京都地方労働組合総評議会 第88回定期大会